

今月のトピックス

- 1 RS ウイルス感染症の報告が非常に増加しています。
- 1 今シーズン初となるインフルエンザでの学級閉鎖の患者から AH1pdm09 が検出され、分析した結果、ワクチン株と類似しており、耐性株ではありませんでした。

全数把握の対象

【10 月期に報告された全数把握疾患】

細菌性赤痢	3 件	急性脳炎	6 件
腸管出血性大腸菌感染症	45 件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 件
E 型肝炎	1 件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2 件
A 型肝炎	2 件	後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む)	2 件
デング熱	2 件	ジアルジア症	1 件
ライム病	1 件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 件
レジオネラ症	13 件	侵襲性肺炎球菌感染症	5 件
アメーバ赤痢	4 件	梅毒	8 件
ウイルス性肝炎	1 件	播種性クリプトコックス症	1 件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	6 件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 件

9 月期の感染症発生動向調査委員会の調査対象期間がシルバーウィーク日程のために繰り上がったことにより、10 月期にとりあげる全数報告の対象期間が通常より長くなっています。

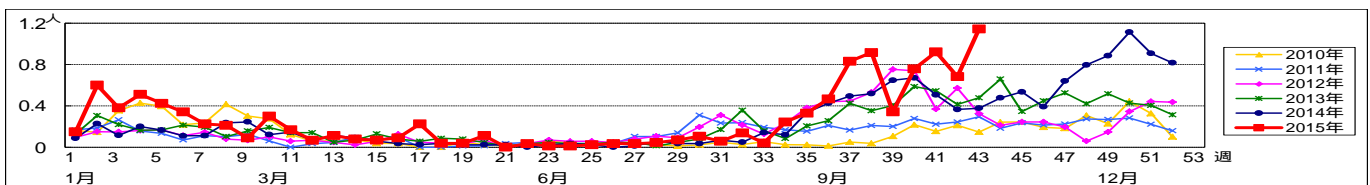
- 1 **細菌性赤痢**: *Shigella sonnei* (D 群) の報告が 3 件あり、1 件は渡航先(インド)での感染、もう 2 件は国内での感染が推定されています。
- 2 **腸管出血性大腸菌感染症**: 市内保育園で園児、職員等の間で 2 次感染が疑われる集団発生がありました。保育園など集団生活を行う場所ではより慎重な感染防止対策が求められます。手洗いや消毒の徹底に加え、特におむつ交換の際には手袋の着用や適切な場所の設定などより慎重な感染防止対策が求められます。
- 3 **E 型肝炎**: 40 歳代の国内感染例の報告が 1 件あり、原因は不明でした。国内での感染は、多くが生肉や内臓の喫食が関連しており、それらの喫食の際には十分加熱することが大切です。
- 4 **A 型肝炎**: 成人例の報告が 2 件あり、どちらも国内での感染が推定されています。近年国内感染例が増加しており注意が必要です。
- 5 **デング熱**: 2 件の報告があり、どちらも海外渡航歴(フィリピン、インド)がありました。
- 6 **ライム病**: 30 歳代の報告があり、米国ペンシルバニア州ピッツバーグでの感染が推定されています。横浜市へのライム病の届出は 2009 年の 1 件(市外在住者が横浜市内医療機関を受診し届出)以来です。[国立感染症研究所](#)によると、ライム病はマダニによって媒介され、1970 年代以降、アメリカ北西部を中心に流行が続いています。欧米では現在でも年間数万人のライム病患者が発生し、さらにその報告数も年々増加していることから社会的にも重大な問題となっています。本邦ではライム病患者報告数は少ないものの、野鼠やマダニの病原体保有率は欧米並みであることから、潜在的にライム病が蔓延している可能性が高いと推測されており、注意が必要です。
- 7 **レジオネラ症**: 肺炎型 12 件、ポンティアック熱型 1 件の報告がありましたが、感染経路等は現在調査中です。
- 8 **アメーバ赤痢**: 腸管アメーバ症 4 件の報告があり、すべて国内感染例でした。2 件は経口感染、1 件は同性間性的接触による感染、残る 1 件は感染経路等不明でした。
- 9 **ウイルス性肝炎**: 1 件の B 型肝炎の報告があり、中国での性的接触による感染が推定されています。
- 10 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**: 6 件の報告がありましたが、院内集団感染等の報告はありませんでした。
- 11 **急性脳炎**: 6 件の乳幼児の報告がありました。病原体検索中です。
- 12 **クロイツフェルト・ヤコブ病**: 1 件の遺伝性プリオン病の報告がありました。
- 13 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**: 2 件の報告がありました。1 件は 40 歳代で創傷感染が推定されており、血清型は A 型でした。もう 1 件は 70 歳代で感染経路等不明でした。

- 14 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む):無症状病原体保有者 1 件、AIDS 1 件の報告がありました。どちらも国内での同性間性的接触による感染が推定されています。
- 15 ジアルジア症:1 件の 50 歳代の報告があり、国内での経口感染が推定されています。横浜市では、ジアルジア症の届出は最近では 2013 年 2 件、2014 年 1 件でしたが、今年は既に計 4 件報告されています。ジアルジア症は、人に身近な犬でも見られる動物人共通感染症であり、日本の犬では、1.9-14.6%で感染が確認されています。参考:[ジアルジア症について](#) (横浜市衛生研究所)
- 16 侵襲性インフルエンザ菌感染症:1 件の報告(90 歳代)がありました。
- 17 侵襲性肺炎球菌感染症:幼児 2 件、学童 1 件、成人 2 件の報告がありました。幼児例 2 件でどちらも予防接種歴が 4 回有りましたが、他の症例では予防接種歴が確認できませんでした。
- 18 梅毒:8 件の報告(早期顕症梅毒 期 2 件、早期顕症梅毒 期 2 件、無症候期 4 件の報告があり、感染経路では、国内での異性間性的接触 6 件、性的接触(詳細不明)1 件、感染経路感染地域等不明 1 件でした。
- 19 播種性クリプトコックス症:1 件の報告があり、ステロイド内服等による免疫不全の影響が推定されています。
- 20 バンコマイシン耐性腸球菌感染症:80 歳代の報告が 1 件あり、以前からの保菌が推定されています。

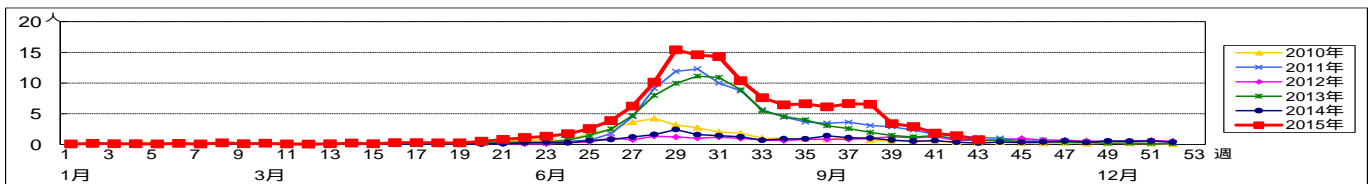
平成 27 年 週 - 月日対照表	
第 38 週	9 月 14 日 ~ 20 日
第 39 週	9 月 21 日 ~ 27 日
第 40 週	9 月 28 日 ~ 10 月 4 日
第 41 週	10 月 5 日 ~ 11 日
第 42 週	10 月 12 日 ~ 18 日
第 43 週	10 月 19 日 ~ 25 日

定点把握の対象

- 1 RS ウイルス感染症:第 43 週は市全体で定点あたり 1.14 と、横浜市で感染症発生動向調査を始めて以来もっとも多い報告でした。今後も増加が予想されるため、注意が必要です。



- 2 手足口病:第 43 週は市全体で定点あたり 0.75 と落ち着いています。ただ、区別では中区で 2.67 と警報レベル(警報発令基準値 5.00、終息基準値 2.00)が続いています。



- 3 感染性胃腸炎:第 43 週は市全体で定点あたり 3.19 と僅かに増加傾向です。今シーズンは、これまで検出例の少ない遺伝子型(G .17)のノロウイルスの流行が危惧されており、[厚生労働省](#)が注意喚起しています。また今シーズンの市内における G .17 の検出はありません。G .17 はノロウイルス迅速診断検査キットでの検出感度が低いことが報告されており、注意が必要です。
- 4 インフルエンザ:第 43 週は市全体で定点あたり 0.25 ですが、第 43 週に今シーズン初めての学級閉鎖が報告されており、AH1pdm09 が検出されました。また、市内病原体定点からも AH1pdm09 が検出されており、遺伝子解析の結果はどちらも 3 月にインドで流行した株と類似していました。ワクチン株との抗原性解析(HI 試験)ではすべて同等 ~ 1 管差(一般的に 2 管差(HI 価 4 倍)以内でワクチン株と類似していると言われていました。)でした。耐性株はありませんでした。
- 5 性感染症:9 月は、性器クラミジア感染症は男性が 14 件、女性が 9 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 5 件、女性が 2 件です。尖圭コンジローマは男性 6 件、女性が 2 件でした。淋菌感染症は男性が 15 件、女性が 0 件でした。
- 6 基幹定点週報:マイコプラズマ肺炎は第 38 週 2.00、第 39 週 1.00、第 40 週 1.00、第 41 週 2.33、第 42 週 2.00、第 43 週 2.00 と、継続して報告されています。無菌性髄膜炎、感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)、細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 7 基幹定点月報:9 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 2 件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>